

法人名 特定非営利活動法人こどもエコクラブ飯能 W

事業計画書

事業名	すべての子供に地域で学習支援事業
種類	(1) SDGs 推進事業 ( 人間 豊かさ 地球 平和 パートナシップ ) (2) 自立促進事業 ( 人間 豊かさ 地球 平和 パートナシップ )
1. 事業の目的	<p>①これまでの活動・・・2011 年子育て中の母親達で地域の子供の居場所作りをしてまいりました。夏休み、一人で留守番をしている子供達の存在を知り「夏休みの小学生の居場所づくり」を始動。夏らしい体験学習を実施。2017 年児童養護施設「同仁学院」にて施設の子供達に体験学習を実施。現在に至る。</p> <p>②活動の中で明らかになった課題・・・</p> <p>1、長引くコロナ禍で不登校になってしまった子供が増えている。不安を感じ、自宅に閉じこもりがちになり社会との交流も遮断してしまう。様々な環境下にあるすべての子供達に安心して学習に取り組める居場所が必要。</p> <p>2、児童養護施設で暮らすお子さんは放課後、塾に通えない。意欲のあるお子さんには学習する場が必要。</p> <p>3、夫婦共稼ぎ世帯が増える中、放課後や長期休暇中、小学生の居場所が少ない。学習支援や体験学習を地域でサポートし色々な大人と関わる事が子供の成長に必要。</p> <p>③課題に取り込むことの必要性・重要性・・・</p> <p>1、不登校の子供は格段に人との接触がない。家族だけでは解決は難しい。学校と家庭以外で子供が安心して過ごし学習に取り組める居場所（サポートできる場所）が必要。</p> <p>2、児童養護施設で暮らす子供達は学校と施設職員以外の地域の大人と出会い学ぶ事は特に必要。</p> <p>3、放課後や長期休暇中、学校の先生や家族以外の地域の大人たちと携わる事はとてもよい。自宅で留守番している時間を有効活用できる。</p>

## 2. 事業の内容

### (1) 不登校の地域の子供に学習及び体験学習を実施

- ①趣旨・不登校の子供に学習の場・人との交流を提供
- ②実施期間・令和4年7月1日～令和5年2月28日
- ③対象者・不登校の子供及び家族（基本的にマンツーマンでの対応）
- ④場所・児童養護施設同仁学院、たんぼぼカフェ等
- ⑤参加見込人数・10名前後
- ⑥外部の協力者、団体・児童養護施設同仁学院、日高市、飯能市社会福祉協議会

### (2) 児童養護施設同仁学院に入所している子供達に学習・体験を実施

- ①趣旨・施設の子供達に学習の場・体験学習を実施
- ②実施期間・令和4年7月1日～令和5年2月28日
- ③対象者・児童養護施設「同仁学院」に入所している子供
- ④場所・児童養護施設同仁学院
- ⑤参加見込人数・10名前後
- ⑥外部の協力者、団体・児童養護施設同仁学院、日高市飯能市社会福祉協議会

### (3) 地域で小学生が放課後、学習・体験できる居場所づくりを実施

- ①趣旨・地域の子供達に学習の場・体験学習を実施
- ②実施期間・令和4年7月1日～令和5年2月28日
- ③対象者・地域の小学生
- ④場所・飯能市公共施設、大川学園
- ⑤参加見込人数・180名前後（15名×12日間）
- ⑥外部の協力者、団体・飯能市教育委員会、地域の専門知識をもった方々、地域の高校生・大学生

### 3. 実施計画

- (1) 不登校のお子さんに学習及び体験学習を実施
- (2) 児童養護施設同仁学院に入所している子供達に学習・体験の場を実施
- (3) 地域で小学生が放課後、学習・体験できる居場所づくりを実施

#### ○スケジュール

時期	
7月	初旬 ・児童養護施設同仁学院にて不登校相談者・学習支援の必要な施設のお子さんの打ち合わせ→スタッフ共有 ・案内チラシ作成（市の後援依頼後、小学校に配布） ・希望のお子さん（保護者）と日程を決める
7月下旬～8月（夏休み期間）	不登校のお子さん及び施設のお子さんに ①学習支援・体感学習 3名×2日間、 ②施設のお子さんに学習支援・体験学習 8名×3日 ③地域のお子さんに学習支援・体験学習 15名×5日
9月	①不登校のお子さん及び施設のお子さんに学習支援・体験学習 3名×1日間 ②施設のお子さんに学習支援・体験学習 8名×1日 ③地域のお子さんに学習支援・体験学習 15名×1日
10月	①不登校のお子さん及び施設のお子さんに学習支援・体験学習 3名×1日間 ②施設のお子さんに学習支援・体験学習 8名×1日 ③地域のお子さんに学習支援・体験学習 15名×1日
11月	①不登校のお子さん及び施設のお子さんに学習支援・体験学習 3名×1日間 ②施設のお子さんに学習支援・体験学習 8名×1日 ③地域のお子さんに学習支援・体験学習 15名×1日
12月下旬～1月初旬（冬休み期間）	不登校のお子さん及び施設のお子さんに ①学習支援・体感学習 3名×2日間、 ②施設のお子さんに学習支援・体験学習 8名×2日 ③地域のお子さんに学習支援・体験学習 15名×3日
1月	①不登校のお子さん及び施設のお子さんに学習支援・体験学習 3名×1日間 ②施設のお子さんに学習支援・体験学習 8名×1日

	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="458 120 639 208"></td> <td data-bbox="639 120 1313 208">③地域のお子さんに学習支援・体験学習 15 名 × 1 日</td> </tr> <tr> <td data-bbox="458 208 639 456">2 月</td> <td data-bbox="639 208 1313 456">           ①不登校のお子さん及び施設のお子さんに学習支援・体験学習 3 名 × 1 日間            ②施設のお子さんに学習支援・体験学習 8 名 × 1 日            ③地域のお子さんに学習支援・体験学習 15 名 × 1 日         </td> </tr> </table>		③地域のお子さんに学習支援・体験学習 15 名 × 1 日	2 月	①不登校のお子さん及び施設のお子さんに学習支援・体験学習 3 名 × 1 日間 ②施設のお子さんに学習支援・体験学習 8 名 × 1 日 ③地域のお子さんに学習支援・体験学習 15 名 × 1 日
	③地域のお子さんに学習支援・体験学習 15 名 × 1 日				
2 月	①不登校のお子さん及び施設のお子さんに学習支援・体験学習 3 名 × 1 日間 ②施設のお子さんに学習支援・体験学習 8 名 × 1 日 ③地域のお子さんに学習支援・体験学習 15 名 × 1 日				
	<p>○広報計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校のお子さんにアプローチできるよう日高・飯能市の後援申請をし、案内チラシを配布。 市の広報誌にも掲載依頼。</li> <li>・施設のお子さんには同仁学院から学習内容を案内、希望者を募る。</li> <li>・放課後、子供への学習支援・体験学習は地域に住む小学校に募集チラシを配布（市の後援依頼）公共施設に配架。</li> </ul>				
4. 実施体制	<p>①総括責任者・小林愛</p> <p>②連絡責任者・内山順子</p> <p>③現場責任者・小林愛</p> <p>④経理担当者・三浦美里</p> <p>⑤広報担当者・木部つかさ</p>				
5. 事業の効果	<p>①不登校のお子さんへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭と学校だけが自分（小学生）の居場所ではない事を発信し、個人個人の現状に合わせて学習や体験学習をマンツーマンで支援していく。</li> <li>・不登校のお子さんに学校以外でも学習する機会をもってもらう。</li> <li>・親や先生以外の色々な大人と関わりをもってもらい多様な考え方に触れてもらう。</li> </ul> <p>②児童養護施設のお子さんへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、児童養護施設に入所している小学生は放課後、学習塾や習い事に通う事は出来ない。希望するお子さんに向けて学習支援や体験学習を実施していく。</li> <li>・学校では習わない自分の好きな事を見つけるきっかけ作りになる効果あり。</li> </ul> <p>③地域の小学生のための放課後、学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共稼ぎ世帯の増加に伴い、小学生が一人で留守番している現状を回避できる。</li> <li>・特に長期休暇中は回数を増やし、様々な体験をし成長できる。地域の住人と関われる。</li> </ul> <p>☆様々な環境下にいる子供達に居場所を作ることによって子供達の体験値もあがる。子供の頃の体験は健やかな成長を助長する。地域で「居場所づくり」が広げ地域に住む方々にも子供達に関わってもらおう。</p>				
6. 今後どのように事業を継続し発展させるか ※自立促進事業のみ					